

# 研究だより

2019年

4月15日

NO.1 研究主任

新学期がスタートして1週間。NRTも終わり、これから授業も落ち着いてできる時期に入ってきますね。学校研究は、日々の授業改善が大切です。それぞれが意識して取り組んだことなど、ちらっとでいいので、「研究だより」などで様子をみんなで共有し合えたらいいなと思っています。前期・後期で1枚ずつと言わず、ぜひ書きたくなったらどんどん書いてくださいね。

## 「つりあいのとれる」って本当にわかっている!?



6年生算数の学習は、対称な図形から始まります。

これが初めのページです。何か感じませんか？  
はじめから

- ・「美しさ」なんて言っているところ
  - ・「つりあいのとれた美しい形」なんて当たり前のように言っていること
- に、私は違和感を感じました。

「つりあい」って簡単に言うけど本当に子どもたちは意味をわかっている？と思い、教科書は開かず授業をスタートしました。

発問「つりあうってどういうこと？」

子どもたち

- ・天秤のように重さが左右同じ
- ・シーソーが平らになれば釣り合う。

など「つりあう」と聞いたとき「重さ」しか頭に浮かんでこない。(理学的視点)

発問「じゃあ、形だったら？」

子どもたち

「え？形…がつりあう??」と、考え始めた。

- ・右と左と同じ形
- ・真ん中で切る(折る)と、左右同じで重なる。

例えば、ひし形なら・・・

- ・平行四辺形だったら折っても重ならないけど、切ると同じ形でできている。

など、切ると左右同じ形でできているもの。折ると重なる。回すと重なるなどと認識。

そのあと 教科書の拡大図を見せた。  
「あ、きれい!」と思わず言った子どもも...

発問「形がつりあうと、どう？」

子どもたち

- ・形がつりあうと「きれい!」「美しい」
- ・形がつりあうと「丈夫」になる。
- ・安定する
- ・安全
- ・バランスよく動ける
- ・機能的
- ・風車などは無駄のない動きができる。

など、子どもたちからたくさんの「つりあい」の良さが出てきた。身の回りを見渡しても釣り合いの取れたものが多いことに気づき、それがなぜなのかを考え始めた。「車だったら・・・」と例にとりながら語る子もいた。これから本格的に授業に入る前の「扉的なページ」は見終りではない。子どもたちの学習意欲や方向性などのために本当はとても大切なところなのかなと思った。また、書いてあることを当たり前にとらえず「本当～?」とちょっと疑ってかかるといいかも...